

第10回甲信地区2国立大学法人公共工事入札監視委員会議事概要

1. 議事概要

開催日時及び場所	令和8年9月4日（金）14：00～16：40 山梨大学甲府キャンパス本部棟5階第一会議室			
委 員	委員長 近藤 徹 （弁護士） 委 員 阿部 和久 （大学副機構長） 委 員 田中 佑幸 （公認会計士・税理士）			
審 議 対 象 期 間	令和7年4月1日～令和8年3月31日			
抽 出 案 件（合計）		3 件		（備考）
工 事（小計）		2 件		
一般競争入札（政府調達に関する協定対象工事）		件		
一般競争入札（上記工事を除く）		2 件		
工事希望型競争入札		件		
通常指名競争入札		件		
随意契約		件		
設計・コンサルティング業務（小計）		1 件		
公募型プロポーザル方式		件		
簡易公募型プロポーザル方式		件		
簡易公募型プロポーザル方式（拡大）		件		
標準型プロポーザル方式		件		
公募型競争入札方式		件		
簡易公募型競争入札方式		件		
一般競争入札		1 件		
随意契約		件		
再苦情申立概要	申立日	件名	契約方式	内容等
	-	-	-	-
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	意見・質問		回 答	
	「3. 審議事項」のとおり			
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	「5. 講評」のとおり			

2. 確認事項

審議に先立ち、委員3名全員の出席により、審議が成立することを確認した。また、「甲信地区2国立大学法人公共工事入札監視委員会実施要項」第4条に基づき、委員の互選により、近藤委員を委員長として委員会審議を進めることとした。

引き続き、事務局から、審議対象期間「令和7年4月1日～令和8年3月31日」の間に契約した案件の中から、委員会実施要項に基づき、あらかじめ審議対象案件の抽出を依頼し、3件を抽出していただいた旨を説明した。

(内訳) ・工事:2件

・設計・コンサルティング業務:1件

3. 審議事項〔進行:委員長〕

3-1) 工事(山梨大学)

【山梨大学(武田 1)ライフライン再生(排水設備)Ⅱ期工事】一般競争入札

山梨大学から資料に基づき、概要説明があった。	
意見・質問等	回答
予定価格及び調査基準価格(低入札価格調査基準)の算出方法について。	文部科学省の公共建築工事積算基準等に基づき、直接工事費に一定の率を乗じる方法により算出している。
第1回・第2回入札がいずれも予定価格を上回り不落となった後、業者から提示された見積額(1億6,830万円)の妥当性はどのように検証したか。また、その検証内容を委員会にも資料として示してほしい。	業者による資材調達方法の見直しやライニング工事等の積算内容の精査、協力業者との再協議による施工費の縮減等の内容を確認し、必要な労務費の確保及び予定価格の範囲内であることを確認した上で契約している。今回は検証内容をまとめた資料は用意していないが、今後は工事費内訳書等、確認できる資料の提示を検討したい。
元請けだけでなく協力会社(下請け)の見積内容についても確認しているか。 価格圧縮が下請事業者への過度な負担とならないか確認が必要ではないか。	現状では元請けから提出された金額の範囲までしか確認しておらず、下請け相当分の内訳までは確認していない。
不落から契約に至るまでの減額の内訳(工種別の内容)について。	管渠更生・ライニング工事で約1,000万円、舗装関係で約1,000万円をそれぞれ減額しており、ライニング工事は全体(約3,000万円)のうち大きな割合を占める減額幅となっている。近年の資材価格の急激な高騰が、当初の想定単価との乖離の一因となっている。
第Ⅰ期工事と第Ⅱ期工事におけるライニング工事の単価の違いについて。	第Ⅰ期工事では工区を細かく分けて施工したことから資材調達等に係る費用が高くなったこと、また

	資材価格の上昇等もあり、第Ⅱ期工事では予定価格と業者の見積額に乖離が生じたものと考えている。
もう一社(宏和建设)が第2回入札を辞退した理由について。	具体的な理由は確認していないが、第1回入札時に示される最低価格を下回る金額を提示できないと判断し、辞退したものと考えている。
工期を延長した理由及び変更契約による増額はいくらか。	掘削時に図面に記載のない埋設配管が判明し、切り直し工事が必要となったこと、学内要望により舗装等の数量を追加したこと等により、変更契約で698万円の増額及び工期延長が生じた。
見積り合わせの交渉過程について、書面や記録は残しているか。	見積り合わせは業者との交渉という性質上、書面や録音データとしては残していない。

3-2) 工事(信州大学)

【信州大学(松本)理学部生物学科校舎改修その他工事】一般競争入札

信州大学から資料に基づき、概要説明があった。	
意見・質問等	回答
過去の工事成績に問題がある業者が入札に参加できないような仕組みはあるか。	過去の工事において不誠実な行為等があった場合には指名停止等の措置が講じられ、そうした業者は入札に参加できない。
低入札価格調査の結果、評価点や評価値を下げるようなことはあるか。	低入札価格調査はあくまで契約内容の履行が可能なことを確認するためのものであり、それにより評価点や評価値を調整することはない。
総合評価における配置予定技術者の工事成績の加点(池田建設4.5点、守谷商会0点)に差がある理由について。	令和3年度以降に管理技術者又は現場代理人として従事した工事の成績点数に応じて加点する仕組みであり、実績がない場合は加点がないだけで、失格になるものではない。
低入札価格調査において、大学積算額との差が大きかった項目とその内容について。	直接仮設(差額約1,200万円)及び建具改修(差額約3,900万円)で差が大きく、資材単価の相違等について重点的にヒアリングを行い、特段の問題は見受けられなかった。
入札説明書に対する質問(参考数量表と設計図の数量の相違)への回答内容について。	参考数量表はあくまで参考資料であり、設計図に記載の数量を優先する旨を回答している。図面公開後を質問受付期間とし、参加者全員に同様の

	回答を公開することで、参加者間の公平性を確保している。
総合評価における地域精通度(緊急時の施工体制)の評価内容について。	技術者や資機材が近隣にあるかなど、緊急時に迅速に対応できる体制を評価しており、今回の落札者は市内に支店等の資機材の拠点があることを評価している。

3-3)設計・コンサルティング業務(信州大学)

【信州大学(松本)理学部生物学科校舎改修設備設計業務】 一般競争入札

信州大学から資料に基づき、概要説明があった。	
意見・質問等	回答
競争参加資格の申請者3社のうち2社が失格となった理由について。	令和7・8年度の競争参加資格の更新時期と重なり、当該2社(松本市の業者、東京の業者)が文部科学省への資格更新申請を行っていなかったため、資格を有していなかったもの。業者側の申請漏れによるものである。
資格切替えのタイミングにより競争性が損なわれる結果となったことについて、改善の余地はないか。	資格自体は広く認めており大学側が絞りでいるものではない。文部科学省における資格の切替え(2年ごと)に伴う業者側の申請漏れであり、取引のある業者には資格を継続するよう呼びかけていきたい。
予定価格を超過し不落となった要因、及び不落随契協議で金額が下がった経緯について。	主な要因は直接人件費(想定技術者数)の見積り差であり、業者の所在地(東京)から長野への移動・現地調査費用も影響していた。協議において、打合せへのリモート会議の活用や大学側からの現況写真・図面データの提供を前提とすることで、業者側が人工数や交通費を見直し、設計品質を損なうことなく、当初見積りから減額に至った。
設計業務の積算基準は、リモート対応の可否を考慮する仕組みになっているか。	仕様書上はリモート対応の可否は明示しておらず、積算基準自体もリモート対応の有無を加味する仕組みにはなっていない。
対象エリア内で参加が想定される業者数について。	長野県内に本社又は営業所を有する対象業種の登録業者は118社あり、近隣県を含めればさらに増える。

別紙資料における評価点の訂正(配点誤りの修正)について。	契約前の入札公告期間中に内部チェックで配点の誤りに気付き、入札説明書と同一の配点に是正したもので、評価そのものには影響していない。
管理技術者と主任技術者が同一人物であることに問題はないか。	機械設備・電気設備それぞれに技術者の配置を求めているが、両分野に対応できる技術者が兼任することは差し支えない。
建築設計業務と設備設計業務を分割して発注している理由について。	一括で発注すると受注可能な業者が限定されるため、大規模な改修工事の場合は建築と設備の設計を分離して発注することが多い。

3-4) 点検対象事業及び点検対象事項(信州大学・山梨大学)

「建設工事一覧表」・「設計・コンサルティング業務一覧表」・「点検対象事業及び点検対象事項」について、以下の通り質疑が行われた。	
意 見 ・ 質 問 等	回 答
【山梨大学】 技術者を配置できる見通しが立たないことを理由とした入札辞退事例が多く見られるが、今後の見通しについて。	法令上求められる専任の技術者を他の受注工事に配置している場合には重複して配置できないため、辞退せざるを得ない状況がある。建設業界全体の技術者不足が背景にあり、有資格者の増加がない限り、抜本的な改善は容易ではない。
【山梨大学】 緊急対応工事において特定の業者を選定した理由について。	火災により窓ガラス等が破損し早急な復旧が必要となったため、隣接地で工事を施工していた業者に協力を依頼したもの。
【山梨大学】 落札率が低い案件について、ヒアリングによる分析結果(利益を最小限に抑えて将来の受注機会につなげたい意向等)を妥当と判断することについて。	ヒアリングでは資材を安価に調達できることや、利益を最小限に抑えて将来的な受注機会を確保したいとの意向が確認され、赤字施工には当たらないことを確認している。委員からは、適正な利益の確保や品質確保の観点から、こうした説明のみをもって妥当と判断することには慎重であるべきとの意見があった。
【山梨大学】 落札率が特に低い(40%台)屋根改修工事案件について、詳細な分析が必要ではないか。	屋根工事は専門業者からの見積りを基に予定価格を算定しており、資材の仕入れ状況(在庫処分等)による価格差が生じた可能性があるが、委員からは推測にとどまらずデータに基づく分析を行うべきとの指摘があった。

・ 委員による講評打合せ

別室にて委員による講評打合せを行った。

5.【講 評】（意見の具申又は勧告を含む）

指摘事項:なし

個別意見:

【山梨大学(武田 1)ライフライン再生(排水設備)Ⅱ期工事】

資材価格等の市場価格の変動が早く、発注者側の予定価格の算定がそれに追いついていない面がある。市場価格のできるだけ迅速かつ適切な把握・反映に努めていただきたい。

不落随契に至った経緯や見積り合わせの過程については、適切に処理されているとは認識するが、見積額が大幅に減額された経緯について、説明責任及び透明性確保の観点から記録化・資料化していただきたい。

【信州大学(松本)理学部生物学科校舎改修その他工事】

低入札価格調査に関する資料(予定価格の内訳と入札内訳の比較)が分かりやすく整理されていた点は評価できる。今後は他の個別審議案件についても、「予定価格内訳書」と「入札内訳書」の種目別・科目別内訳および最低基準価格調書により、直接工事費、共通仮設費、現場管理費等の区分で比較できるよう資料を用意していただきたい。

【信州大学(松本)理学部生物学科校舎改修設備設計業務】

参加可能な業者が地域に多数あるとする一方でエリアを広げて競争性を確保するとの説明と、人件費を積算のベースとする説明との間に、やや矛盾する印象を受けた。リモート活用や資料提供により業者の負担を軽減し金額を抑えられた点は良い事例であり、今後はこうした対応を仕様書等に明示し、広域からの参加を促す工夫を検討していただきたい。

競争参加資格を有する者が1者のみとなり競争性が確保できなかったことは残念であり、こうした事態が生じないよう、資格の周知等、広く競争性を確保できる形での公告等を工夫していただきたい。

【共通事項】

すべての案件において、手続きに疑義が生じた理由やそれに対する調査結果、再入札に至った経緯などは、委員会向けの報告にとどまらず、組織の正式な記録として書面保存することを検討いただきたい。